

セシヤンと云義不詳、また旃檀にして一名なる也。

〔倭訓栳中編一〕あふち 倭名抄に棟をよめり、萬葉集に相市之花と見ゆ、今俗せんだんといふは

焼て香氣あるをもて、和の赤旃檀と勅名を賜はりしによるといふ、華嚴經に旃檀一鉢を焼ば、小

千世界に薫すと見ゆ、諺に旃檀は二葉より香はしといふも是也、枕草紙にあふちの花いとをか

し、かれ花に咲て必五月五日にあふちをかすと見えたり、名義是成べし、とき反ち也、其時にあふ

をいふ韻會に、今人作粽并戴棟葉、五色絲皆汨羅遺俗といへり、今も田舎には端午に軒にさすと

もいへり、歳時記に、凡一年中花信風二十四番、始于梅花終于棟花といへり、棟のすそごは表薄色

裏青色也といへり、藤原明衡の詩に、檣花菖葉自回辰と見え、萬葉集にも檣をよめるはあらずと

いへり、此字をよめるも本草に五月五日、俗人取檣葉佩之避惡氣といふに、これ檣をよむは檣

を惡木なりと注せるによれる、倭字也、新撰字鏡には、榿もよめり、松岡翁の説に、棟と苦棟とは別

也、苦棟は近年和州より出たりとぞ、今黃棟樹といふ物にや、

〔萬葉集五〕伊毛モ何美カ斯阿シ布知フチ乃波ノ波ハ那波ナ和利ワ奴倍ヌ斯知シ何那カ久那ク美多メ伊摩イ陀飛タ那久ナ爾ニ

〔萬葉集十〕詠花夏雜歌

吾妹ワ子爾コ相市ア乃花ノ波落ハ不過チ今イ咲マ有ケ如ル有リ與ト奴ニ香カ聞ケ

〔大和本草十一〕棟 和名ヲアフチト云、近俗センダント云、旃檀ニハ非ズ、其子ヲ苦棟子ト云、金鈴

子トモ云フ、藥ニ用ユ、中華ニテ川ノ國ヨリ出ルヲ良トス、川棟子ト云、時珍云、棟ハ長ズル事甚速

ナリ、三五年即可作椽ト云、其葉倭方ニ用テ虫積霍亂ノ藥トス、中華ノ方書ニハ未見、此方只疝氣

ノ陰囊ニ入テ痛ムニ用ル事ヲ時珍イヘリ、日本古來罪人ヲ梟首スルニ此木ヲ用ユヘニ、佗材ニ

不用、罪人ノ首ヲ棟ノ木ニカケン事、源平盛衰記等ニモ見エタリ、

〔和漢三才圖會八十三〕棟音練 苦棟 實名金鈴子 俗云雲見艸略